

「多摩市胃瘻ネットワーク PDN セミナー」について

多摩市胃瘻ネットワーク事務局 多摩南部地域病院看護相談係長 大津陽子

[多摩市胃瘻ネットワークの特徴]

「多摩市胃瘻ネットワーク」は、多摩市医師会が発足時の基盤となり地域医療支援病院が地域の中核病院としての機能を生かしてネットワークの構築を進めてきた。

多摩市医師会には地域医療支援病院である多摩南部地域病院と救命救急センターを擁する日本医科大学多摩永山病院の2つの2次医療機関を含む8つの病院と94の医療機関がある。この多摩地域の特徴は、東京都においても高齢化率がトップクラスである多摩ニュータウンを抱えていることである。

[発足経過とセミナーの目的]

多摩市胃瘻ネットワークは、平成17年11月多摩市医師会の8つの病院理事長・院長・副院長がからなる病院委員会の中で、胃瘻の勉強会(PDN セミナー)をきっかけに、多摩市で胃瘻のネットワークを作ることへの提案があり、多摩市内の胃瘻の造設・交換を行っている5施設を中心に発足会議を立ち上げた。このネットワークの目的の1つに 多摩地域の胃瘻に関する知識とケア能力の向上を図り「胃瘻ネットワーク」を中心にした胃瘻の適正かつ安全な管理体制の整備をあげ、摂食栄養管理の質の向上を目指すことを掲げ、関係する施設や在宅関係者を対象に研修会・勉強会・実習等を実施することとなった。

[これまで2回のセミナーを開催]

第1回は2006年9月21日に参加対象者をこのネットワークの拠点病院と多摩医師会の在宅支援診療所を中心に医師20-30名を想定し21名の参加があり、アンケートの回収は11名回収率52%であった。第2回は2006年10月12日に参加対象者を第一回と同様にこのネットワークの拠点病院と多摩医師会の在宅支援診療所のコメディカル・看護師を中心に100名を想定し92名の参加がありアンケート回収は63名回収率68%であった。

セミナーの内容は、第一回は多摩市胃瘻ネットワークの組織について座長より紹介し、「胃瘻の造設と交換」の講義に移った。緊急時対応と交換の手技の実際をPDNセミナー講師の宮脇 誠医師が実践場面のビデオを用いて講義した。第二回は初回セミナーと同様に多摩市胃瘻ネットワークの組織についての紹介・説明をし、「胃瘻の管理について」スキントラブル対応を厚生荘病院金田看護師の実践場面のビデオを用いた講義を中心に緊急時対応についてPDNセミナー講師宮脇医師の講義を実施した。両セミナーともPDNの機器代表業者メディコン株式会社に胃瘻の機材についての紹介と説明を依頼し、このネットワークの主旨に賛同していただける栄養剤業者のカタログ・サンプル試飲の展示ブースを設定した。

[アンケート結果]

今回の2回のセミナーは、まずこのネットワーク内の5病院の関係する施設の職員が胃瘻ネットワークを理解し、胃瘻の知識を共有し、今後の胃瘻ネットワークの活動についての示唆を得るためであった。

1. 医師の回答 N=11名 回収率52%

参加医師のセミナー後のこのネットワークについての理解は全員「よくわかった」か「わ

かった」と回答しており今後このネットワークへの参加を希望するが81%(9名)で他2名の回答は「参加を検討する」であった。同じくネットワークに賛同しネットワークのホームページへ施設名を公表することに回答者の9名が賛成しており希望しないとの回答はなかった。また、今後の方向として「地域連携パス作成時の参加」については積極的に参加の意思表示が回答者の9名(81%)からあり、「必要ない・興味がない」の回答はなかった。

2. コメディカル・Nsの回答 N=63 回収率 68%

参加者のセミナー後のこのネットワークについての理解は1名の未回答以外の62名が「よくわかった」か「わかった」と回答しており、今後このネットワークへの参加を希望するが9名(14.2%)で「参加を検討する」が38名(60.3%)であった。必要ないはなかったが「興味がない」の回答が3名(4.7%)あり、未回答が15名(23.8%)あった。同じくネットワークに賛同し施設名を公表することについて回答者の11名が賛成しており確認検討するが18名(28.5%)であり、未回答とその他が33名(52.3%)、希望しないとの回答は1名(1.5%)であった。また、今後の方向として「地域連携パス作成時の参加」については積極的に参加の意思表示が回答者の12名(19.0%)あり、検討するが23名(36.5%)であった。未回答が25名(39.6%)、興味がないとの回答は2名(3.1%)であったが必要ないの回答はなかった。自由記載は、「日常の看護の中で細かい所など勉強になりました。」や「ものすごいパワーを感じました。」「胃瘻造設からトラブルの対処法の実際までとてもわかりやすい公演でした。」「町田地域での胃瘻ケアネットワーク運営に是非参考させていただきます。」と今後の近隣ネットワークとの連携を示唆するものもあった。

[セミナーの評価]

1. 胃瘻ネットワークの理解周知は図れた。
2. 地域連携パスについて参加を希望する回答が多く、今後のネットワークの方向性への示唆を得られた。
3. セミナー後、地域の開業医からは初めての胃瘻管理について実物を見たい、管理方法を研修したいなど問い合わせがあり、また、施設の看護師からは増設直後の栄養剤のもれについての問い合わせがありセミナーの影響と考えられた。

[考察と今後のセミナーについて]

地域全体での胃瘻管理能力の向上のために各々の病院の特徴を活用できる組織とその周知に向けて「ネットワークの誰かに聞けば何とかなる」という思いを関係者全員に周知できるように、セミナーを各施設で実施し事例検討を取り入れるなど、より現場の患者・家族・直接介護者の役に立つ実践的なセミナーを実施し一方、施設見学の受入など拠点施設の機能を理解してもらえそうな開かれたネットワーク作りを目指したい。また、地域連携パスの作成により、地域の関係施設全体を包括したネットワークへの拡大を目指したい。

[セミナーのサイドエフェクト]

- ・ このネットワークは医師会を中心として発足しPDNの協力を得てセミナーの実施を進めてきた。どの病院からみても中立的な組織として地域医療支援病院である多摩南部地域病院が中心となり、高齢化の進む多摩地区の今後の課題への取り組みであり時代の波

として求められている地域ネットワークの構築を目指すこととなった。

- ・ 施設間の昔からあった利害関係を乗り越え各医療機関の特徴を生かした住み分けが出来たのは、病院のトップの意思決定があったからこんなにも迅速にネットワークとして形づくれたと考える。つい2-3年前までは丸秘であったであろう各施設の院内事情を公開し自分の施設の持っているものを共有する意思決定は施設のトップが参加してこそできたことでありその意思決定の下、共に1つのものを目指すことで地域の関係者が一体となり一種の地域共同体としての仲間意識を育てることとなった。セミナーの実施は仲間意識の育成にも繋がったと考える。